

領域;看護部

医療現場ニーズ;胃瘻チューブに直接繋がるルート



医療現場ニーズ提案部門
滋賀医科大学 附属病院 看護部

「胃瘻チューブの設置を簡易にしたい」

■看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>

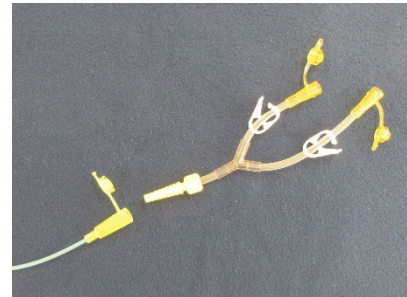
■ニーズの背景

- ・胃瘻チューブ(PEG)のルートは中継デバイスを介し接続される。
PEGとルートのメーカーが違っていても設置できる一方、パーツが増える事でルート設置の手順が煩雑になるという問題がある。
- ・中継デバイスを用いない方法が負担軽減のためにも望まれている。

■現在の対応方法

- ・チューブの長さや内部ストッパーのタイプによりPEGは4種類に分けられ、種類によっては専用の接続管が必要なものもある。
- ・最近増えている半固形タイプでは細いチューブでは投与しにくいなど栄養剤の種類によって、適切な太さを選択しなくてはならない。

【イメージ・参考例】現状のルートと胃瘻カテーテル



機能アイデア例

- ・PEGとの接続が簡単な機能
- ・後接続を防ぐ機能
- ・汎用性を高めた機能

■使用頻度や市場性(マーケットサイズ)に関する情報

- ・本邦における胃瘻設置者数は26万人におよぶ(推定)
- 出典:全日本病院協,「胃瘻造設高齢者の実態把握及び介護施設・在宅における管理等のあり方の調査研究」
https://ajha.or.jp/voice/pdf/other/110416_1.pdf

お問合せ先

滋賀医科大学 研究推進課 産学連携係

電話: 077-548-2847

メール: hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp